

| | | | | | |
|--|---------------------|------|-------|------|--------------|
| キクの施設栽培における細霧噴霧装置による防除効果 | | | | | |
| [要約] キクの施設栽培における細霧噴霧装置による無人防除は、アブラムシ類に対する防除効果は手散布防除と同等であるが、ハダニ類に対しては手散布防除に比べて防除効果は十分でない。 | | | | | |
| 担当部署 | 園芸研究所・野菜花き部・施設機械研究室 | | | 連絡先 | 092-922-4364 |
| 対象作目 | 花き・花木 | 専門項目 | 施設・機械 | 成果分類 | 技術改良 |

[背景・ねらい]

キクの施設栽培における病虫害防除作業は、手散布がほとんどであり、作業者が農薬にさらされる危険性や高温下での重労働を伴うため、無人防除技術の確立が望まれている。

近年、産地では、夏季の高温抑制を目的に細霧噴霧装置が導入され、これらの害虫防除や葉面散布などへの多目的利用が求められ、細霧噴霧装置の薬剤散布特性について、葉裏への薬剤の付着が手散布に比べて少ないことを明らかにしたが（平成9年度成果）、今回は細霧噴霧装置による主要害虫に対する防除効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. キクの生長点付近に寄生するアブラムシ類に対する細霧噴霧装置を用いた防除効果は、手散布防除と同等である（図1）。
2. キクの葉裏に寄生するハダニ類に対する細霧噴霧装置を用いた防除効果は、手散布防除に比べると葉裏への薬剤の付着が少なく十分でない（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 施設ギクにおける細霧噴霧装置利用による無人防除の指導資料として活用できる。
2. ハダニ類等の葉裏に寄生する害虫に対しては防除効果が不十分であるので、手散布防除を組み合わせる必要がある。

[具体的データ]

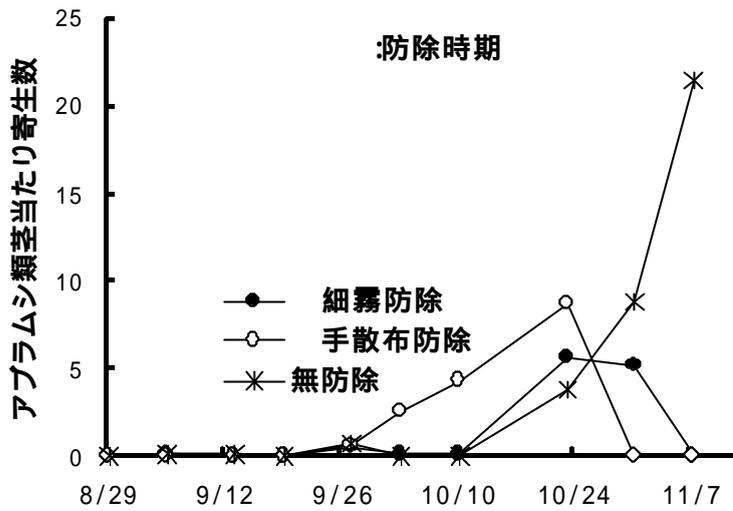


図1 アブラムシ類発生密度の推移 (平成12年)

注) 1. 品種: 「秀芳の力」、定植日: 7月19日。
 2. 細霧噴霧装置: DIK社製MS-W型、動噴圧力2.5MPa。
 3. 10月24日: モスリン水溶剤×2,000、11月2日: アグリコ乳剤×2,000を300L/10a散布。

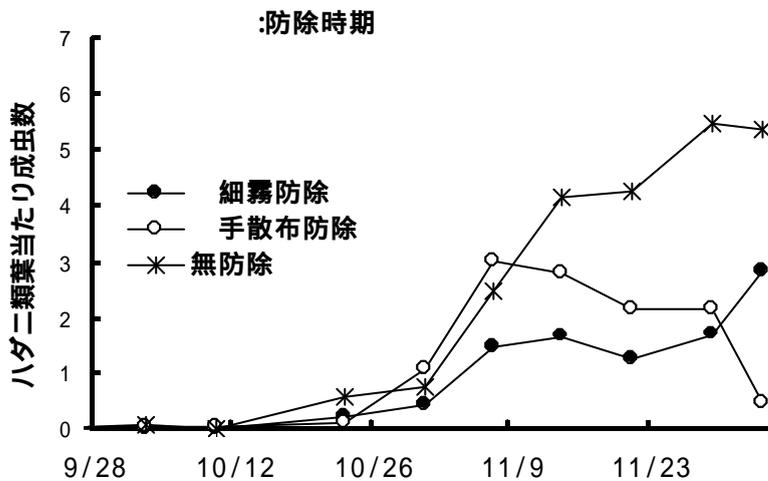


図2 ハダニ類発生密度の推移 (平成12年)

注) 1. 品種: 「秀芳の力」、定植日: 7月19日。
 2. 細霧噴霧装置: DIK社製MS-W型、動噴圧力2.5MPa。
 3. 11月8日: サライFL×1,000、11月15日: タニトFL×1,000、
 11月22日: ケン乳剤×1,500、11月29日: ヲツFL×2,000、
 を300L/10a散布。

[その他]

研究課題名: 配管移動式細霧散布装置等利用による高精度無人防除技術確立

予算区分: 県特

研究期間: 平成12年度 (平成8~12年)

研究担当者: 井手 治、森山友幸、姫野修一